



# あのとときの常呂・写真館

VOL 138

(1990年)

平成2年11月10日

## 常楽寺の鐘楼堂建立落慶法要・稚児行列

▶常楽寺の鐘楼堂建立について、『常楽寺開教百年史』（平成14年1月刊）から抜粋して紹介します。「常楽寺…境内の南西の角に荘厳されています鐘楼堂（しょうろうどう：鐘つき堂）は、平成2年11月7日に久世家によって建立…久世家祖母・常さんは永年〈開教100年記念の年までに、ぜひ鐘楼堂を建てたい。そのために梵鐘だけでも早く購入して寄付したい〉と口癖のように懇念されていました…ご祖母さまの突然のご逝去により、施主をはじめ遺族の方の中から祖母の永年の夢であった鐘楼堂を建立寄付したいとの声が高まり、札幌・善光堂の幹旋施工によって建立…宮大工・寺社建築工房の志田四男氏の手になるもの…梵鐘の作として〈高岡市・鋳物師 老子次右エ門〉と鋳像…鐘楼堂建立落慶法要は、平成2年11月10日に稚児行列とともに盛大に執り行われました」



●同書掲載の、法要に寄せられた俳句5句から2句を紹介します。

「浄財の 鐘つき堂に 小鳥来る」

「かじかみて 撞きし鐘の音 ひろがれり」

中台 泰史

●「広報ところ」12月号の「まちの話題」コーナーには1枚の小さな写真を載せ、「常楽寺に鐘つき堂が完成。約60人のお稚児さんが花を添えました」と紹介しています。







バスターミナル前から直進し、中央町の市街地（商店街）・役場前を通過して常楽寺までの行列

